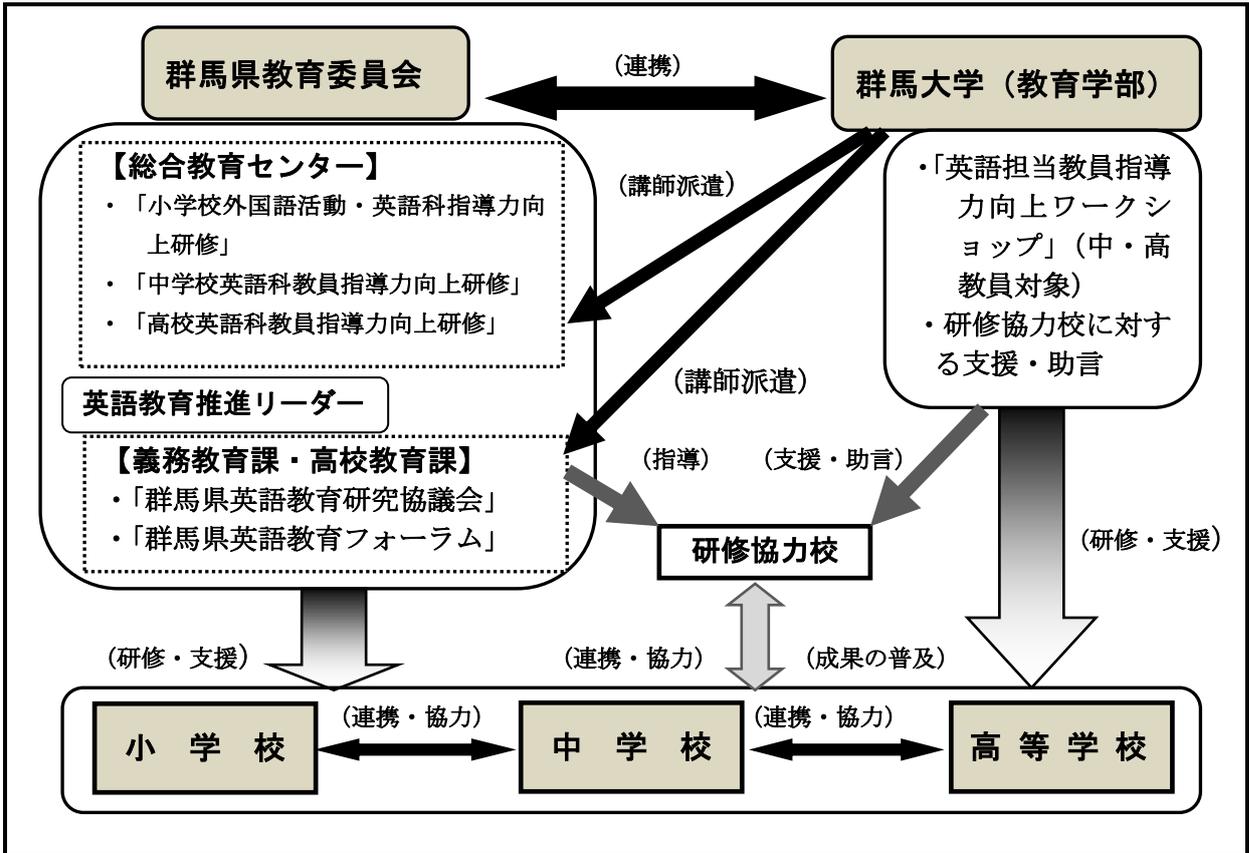


(様式3-2)

群馬県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

【高等学校】

① 求められる英語力を有する教師の割合について

英検準1級以上等を取得している英語担当教員は、現状、全体の約72.0%である。近年、種々の外部検定試験への関心は高まっており、英検準1級以上等を取得している者の割合は、少しずつ増加してきた。

今後、教育委員会として、研究協議会等で「教員の求められる英語力」について周知を図るとともに、英語教育推進リーダーを活用した研修等を継続し、教員の英語運用能力の向上を目指す。また、外部検定試験の受験を奨励し、英検準1級以上等を取得している者の割合を2018年度までに74%以上としたい。

② 求められる英語力を有する生徒の割合について

高校3年生で英検準2級以上相当の英語力を有する者の割合は、現状、36.8%である。大学入学者選抜改革に伴い、外部検定試験を受検する生徒も更に増加すると考えられる。県教育委員会として、2018年度の達成値を38%に設定し、学習指導要領の趣旨に沿った授業改善を更に推進したり生徒の英語運用能力を適切に測ることができるような学習評価の改善を推進したりするなどして、生徒の英語コミュニケーション能力の伸長を一層図ってきたい。

③ 学習到達目標の整備状況について

「CAN-DO リスト形式の学習到達目標」については、その趣旨や作成方法等について各種研修や協議会等で周知を図ってきた。また、「CAN-DO リスト形式の学習到達目標」の活用を目指し、総合教育センターで、年間指導計画との関連付けや評価方法の見直しに向けた研修を行った。2017年度同様、2018年度当初には、各学校で見直した「CAN-DO リスト形式の学習到達目標」の提出を求めており、更なる活用を図りたい。

④ パフォーマンステストの実施状況について

パフォーマンステストの実施についても、各種研修や協議会等で周知を図っており、実施状況は改善しつつある。これまでの事業の成果として、学校の取組事例等をまとめた、「群馬県高校生パフォーマンステストアイデア集」を作成しており、この資料も活用しながら、今後も指導と評価の改善を進めていきたい。

【中学校】

① 求められる英語力を有する教師の割合について

英検準1級を有する教師の割合を、現状27.2%から、2018年度30%に目標値を設定する。ALT研修等におけるネイティブスピーカーとの少人数班での意見交換や、基本的に英語で進める授業スタイルを基にした教師の日常的英語使用時間の拡大を通して、教師の英語運用力が向上するよう研修を行う。

② 求められる英語力を有する生徒の割合について

英検3級以上相当の英語力を有する生徒（中3）の割合を、現状43.3%から、2018年度50%に目標値を設定する。生徒が実際に授業中に英語を使う時間を確保し、充実した言語活動を行うため、研修や授業公開を通して、言語活動のモデルを提示し授業改善を支援する。また、長期研修員による言語活動内容等の実践研究を行う。

③ 学習到達目標の整備状況について

学習到達目標の整備状況については、CAN-DOリストを設定している学校の割合を、現状の100%を維持するとともに、各校においては学校の実態にあわせて、随時修正をしていく。達成状況の把握については、現状38.9%から2018年度50%に目標値を設定する。各校の校内研修や市町村単位の英語主任会等で達成状況を把握できるように検証を行う。

④ 生徒の英語による言語活動時間の割合について

生徒の英語による言語活動時間の割合を現状85.7%から2018年度90%に目標値を設定するが、数値を上げることをのみを目指すのではなく、中身のある言語活動とするために、言語の使用場面、必然性のある場面設定等を工夫し、教師の意識改革と指導の改善に取り組む。研修や授業参観・研究会を通して、多くの英語科教員に言語活動の意義とモデルを提示する。

⑤ パフォーマンステストの実施状況について

パフォーマンステストの実施状況については、スピーキングテスト、ライティングテストとともに、2018年度3回に目標値を設定する。定期テストと同程度の実施回数でテストとして位置づけ、計画的に実施できるようにする。CAN-DOリスト設定と言語活動の充実に伴い、授業内容に合致した評価方法となるよう、従来のペーパーテスト以外の評価方法を組織的に実施する。

⑥ 英語担当教員の英語使用状況について

英語担当教員の授業中の英語使用率を現状79.2%から2018年度80%に目標値を設定する。英語部会等を通して校内での共通理解のもと、全学年で取り組めるよう体制づくりを支援する。まずは、比較的順応力の高い若手教員を中心に研修を通して指導方法の改善に取り組む。なお、英語で授業を行うことを基本とするという新学習指導要領の趣旨を踏まえ目標値を設定しているが、生徒の実態や指導内容によっては、必要に応じて日本語を使用してもよいということを共通理解した上で取り組んでいく。

⑦ 英語担当教員に帯する研修実施回数

研修実施回数については、2018年度8回を目標値として設定する。管内各2回の研修会を4箇所の教育事務所管内において実施する予定であるが、回数増加が目的ではなく、研修内容の充実を図りたいと考えている。

⑧ 研修受講者数

各学校から1名計160名の教員の参加を目標値として設定する。具体的な指導事例や先進的な取組を紹介し合うなどするとともに、中央研修を受講した英語教育推進リーダーによる実践研修により、研修内容が各校に一層広がるような仕組みを構築する。

【小学校】

① 小学校教員に対する研修実施回数

研修実施回数については、2018年度10回を目標値として設定する。県教育委員会が配置する英語教育アドバイザー教員10人による公開授業を小学校教員の研修の場と位置づける。

② 研修受講者数

各学校から1名計306名の教員の参加を目標値として設定する。また、参加者は所属校における校内研修にて研修内容の普及を図る。

(3) 研修の体系と内容の具体

○研修の体系と内容の具体

① 群馬県総合教育センター主管の外国語活動及び英語担当教員研修について

○「小学校外国語活動・英語科指導力向上研修」

対象：小学校の教員（特別支援校含む）

目的：新学習指導要領の全面実施に向けて円滑な移行ができるよう、小学校英語教育の早期化・教科化への意識向上及び指導力向上を図る。

内容：（第1日）・講義「小学校英語教育の早期化・教科化に向けて」

・実践発表「早期化・教科化に向けた具体的な実践」

・演習「マイクロティーチングⅠ・Ⅱ」

※ 講義や実践発表・指導案作成等を通して、効果的な指導法について学ぶ。

（第2日）・授業参観及び授業研究会

※ 授業参観及び授業研究会を通して、授業方法を学び、授業改善を図る。

○「中学校英語科教員指導力向上研修」

対象：中学校の英語教員（中等教育学校含む）

目的：新学習指導要領の全面実施に向けて円滑な移行ができるよう、中学校英語教育の高度化への意識向上及び指導力向上を図る。

内容：（第1日）・講義「中学校英語科授業の高度化に向けて」

講師 文部科学省初等中等教育局視学官 平木 裕

※ 視学官の講義を通して、英語教育改革について深く理解する。

○「高校英語科教員指導力向上研修」

対象：高等学校及び中等教育学校の英語科教員

目的：参加型ワークショップを基本とし、他校の教員と情報や考えを共有しながら英語運用能力及び教科指導力の向上を図る。

内容：3日間とも高校の英語教育推進リーダーを講師とし、その研修内容を本県の全高等学校及び中等教育学校の英語科教員に普及する。

（第1日）・講義・演習「Personalization」

・講義・演習「語彙・表現に関わる言語活動」

・講義・演習「話すことに関わる言語活動」

※ 英語教育の動向について学ぶとともに、「話すこと」に視点を当て、言語活動を体験しながら、自らの授業運営に生かす。

（第2日）・講義・演習「聞くことに関わる言語活動」

・講義・演習「書くことに関わる言語活動」

・講義「新学習指導要領の趣旨を踏まえた、これからの高校英語科授業の在り方」

講師 文部科学省初等中等教育局教科調査官 下山田 芳子

※ 「聞くこと」「書くこと」に視点を当て、演習を通して授業中の言語活動の充実方法を学ぶ。また、文部科学省初等教育調査官の話を通して、新たな授業づくりの必要性について考える。

- (第3日) ・講義・演習「読むことに関わる言語活動」
 ・協議・演習「コミュニケーションを支えるための文法」
 ・講義「表現力や発信力を高める授業づくり」

講師 お茶の水女子大学附属高等学校 津久井 貴之

- ・協議「今後の英語指導についての目標と課題」

※ 他技能との関連を重視した「読むこと」を学ぶとともに、文法指導の在り方について演習を通して考える。特別講義では、生徒主体の英語授業について講師から授業づくりを学ぶ。また、学んだことをどう生かすのか協議する。

② 群馬大学との連携について

- 「英語担当教員指導力向上ワークショップ」の開催（県教育委員会共催事業）
 対象：小・中・高等学校及び中等教育学校の英語担当教員
 概要：小学校外国語活動と中学校英語科及び高等学校外国語科を効果的に連携できるようにするため、指導方法や授業づくりについての研修を通して実践的指導力の向上を図る。ワークショップの実施に当たっては、県教育委員会の指導主事等が講師として参加することにより、大学と連携して指導力向上を図る予定である。
- 「英語担当教員発音ブラッシュアップ研修」の開催（県教育委員会共催事業）
 対象：小・中・高等学校及び中等教育学校の英語担当教員
 概要：生徒への指導において、担当教員が適切な英語の発音を用いることができることを目的として実施する。実施に当たっては、群馬大学の施設を利用し、講師は、群馬大学の教授とする。
- 「群馬県英語教育研究協議会」及び「群馬県英語教育フォーラム」への講師派遣
 県教育委員会が主催する標記研究協議会等に、日本人及びネイティブスピーカーの教員を講師として派遣し、講演会やワークショップを行う。
- 研修協力校への支援・助言
 必要に応じて、研修協力校に講師を派遣し、当該校の指導改善及び評価の改善の取組について指導・助言を行う。

③ 「群馬県英語教育研究協議会」及び「群馬県英語教育フォーラム」について

- 「群馬県英語教育研究協議会」（年2回開催）
 対象：小・中・高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の英語担当教員約120名
 内容：研修協力校を会場とし、公開授業、研究協議等を行う。異なる校種の英語担当教員が参加することにより、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の充実を図る。
- 「群馬県英語教育フォーラム」（年1回開催）
 対象：小・中・高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の英語担当教員約300名
 内容：授業実践発表、講演会、分科会での協議等を通して、英語担当教員の指導改善に対する意識を高め、県全体における英語教育の改善を図る。
 上記の「群馬県英語教育研究協議会」及び「群馬県英語教育フォーラム」については、小・中・高等学校の連携や県全体への効果などを考慮し、「英語教育強化地域拠点事業」における研究校や県独自で指定した英語教育の強化地域等の取組についても内容に含めて実施する。

④ 研修協力校の取組について

○学習指導及び学習評価の改善に係る取組

- ・英語担当教員の校内研修を充実する体制を構築する。
- ・学習指導要領の趣旨に沿った学習指導を充実する方策について研究する。
- ・生徒の英語による言語活動を充実する効果的な指導について研究する。
- ・生徒の実態に合った「CAN-DO リスト形式の学習到達目標」の見直し及び年間指導計画への反映等、効果的な活用について研究する。
- ・スピーキングテストを中心とするパフォーマンステストの実施等、4技能をバランスよく測る方策について研究する。
- ・ICTを活用した言語活動の方法について研究する。

○取組成果の普及について

取組の成果等について、「群馬県英語教育研究協議会」や「群馬県英語教育フォーラム」等において実践発表を行うなどして、県内各学校への普及を図る。

⑤ 「群馬県英語教育改善プラン運営指導委員会」について（年2～3回開催）

外部有識者（5名程度）から成る運営指導委員会を組織し、研修協力校における取組や県の研修実施体制等についての指導・助言を得る。委員については、高等学校関係者及び義務教育関係の有識者から人選を行い、研究協力校の取組とともに、県全体の英語教育改善について助言を得ることとする。

⑥ 事業効果の検証について

定量的なデータとしては、英語教育実施状況調査における項目のうち、特に学習到達目標の活用状況やパフォーマンス評価の実施状況等について検証し、評価方法の改善状況を把握するとともに、今後の取組について検討していく。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	・研修協力校訪問①（高校教育課・総合教育センター）	
5月		
6月	・群馬県英語教育改善プラン運営指導委員会① ・中学校英語科教員指導力向上研修①	・運営指導委員会出席
7月	・小学校外国語活動・英語科指導力向上研修① （総合教育センター） ・小学校学級担任英語指導力向上研修①（総合教育センター） ・高校英語科教員指導力向上研修①（総合教育センター） ・研修協力校訪問②（高校教育課・総合教育センター）	
8月	・高校英語科教員指導力向上研修②（総合教育センター）	・英語担当教員指導力向上ワークショップ ・英語担当教員発音ブラッシュアップ研修
9月	・群馬県英語教育研究協議会①（研修協力校）	・ワークショップ・指導助言
10月	・群馬県英語教育研究協議会②（研修協力校） ・小学校外国語活動・英語科指導力向上研修② （総合教育センター） ・中学校英語科指導教員指導力向上研修② （総合教育センター）	・ワークショップ・指導助言
11月	・高校英語科教員指導力向上研修③（総合教育センター）	
12月	・群馬県英語教育フォーラム（総合教育センター）	・講演又はワークショップ
1月	・群馬県英語教育改善プラン運営指導委員会②	・運営指導委員会出席
2月	・「英語科パフォーマンス評価実践資料」作成・配布（総合教育センター）	
3月	・研修協力校訪問③（高校教育課・総合教育センター）	
【その他の取組】		

